



いたわりPlus

2019年1月

ご自由にお持ち帰り
ください。

TAKE FREE

2018年を振り返って「災害対策」を考える

2018年は新院長の下でさまざまな取り組みをスタートさせましたが、そうした中でも大きな転機となったのが北海道胆振東部地震でした。

震災時には、救急搬送や透析患者を受け入れるなど緊急体制をとることができた一方で、新たな課題も見つかりました。こうした経験を踏まえ、病院では災害対策力の向上に向けた対応を進めています。

江別市立病院 2018年の出来事

- 4月 富山光広院長が就任
- 5月 患者支援センターを新設
- 9月 北海道胆振東部地震の発生(9/6)
- 10月 診療科名の刷新／東3病棟の休棟



災害支援から健康管理まで院内・外に向け対応

看護部長 黒木純子

昨年の震災では、救急搬送を受け入れるよう人人体制等を調整する一方、市内7カ所に開設された避難所へ健康管理のため看護師を2名派遣しました。また、北海道看護協会からの要請に応え、災害支援ナース2名を厚真町へ派遣しました。

このように、災害時には患者受入以外にも多くのことが求められます。私たちは今回の経験を踏まえ、災害が平日の日中に発生した場合等を想定して、優先度を考えて必ず行わなければならない業務などを再確認し、“平時にできないことは災害時にできない”ことを念頭におきながら、医療が継続できる体制の強化を考えていきます。

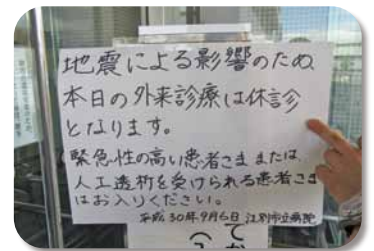


院内のマンパワーを駆使し、非常時でもできることは確実に

栄養科長 今野麻里子

病院の食事で特に注意するのは、糖尿病の患者様への対応です。血糖値の関係から朝食は7時45分と決まっています。震災当日もそれに間に合わせようとせめて味噌汁だけでも調理し、非常食を準備しました。地震によりエレベーターが停止していたので、地下1階から地上5階まで約200食を職員で協力して人力で運び、マンパワーで時間内に配膳できたときには心底ほっとしました。この震災で痛感したのはお米と調味料の大切さです。病院には高齢で、飲み込むのに苦労される方も多く、おかゆにもできるお米は重宝します。こうした食材確保も考慮し、災害に備えたいと考えています。

非常食でも安心して食べていただくため、栄養科職員が全てチェック。その後、看護師や事務局職員、薬剤師や医師など約50人で“配膳リレー”を行いました。



震災当日は外来診療を休診し、救急搬送や人工透析を受け入れ。患者様の協力もあり、混乱もなくスムーズに対応できました。

病院には自家発電機が2基あり、約6日間稼働する能力があります。



より実効性の高い事業継続計画を整備します

総務係長 但馬功一

当院では地震発生後、一定規模の自家発電機や受水槽があることから、人工透析患者を受け入れたり、冷蔵保管の薬品を預かるなど、他院からの要請に応じることができました。

一方、病院には災害時に対応するためのマニュアルがありますが、昨年のように流通と電気が同時にストップすることは想定外でした。そのため白衣の管理(洗濯など)や懐中電灯の不足など課題も見つかりました。

この経験を糧に今後も地域の中核病院として災害に強い病院を目指し、一層実効性のある災害対応を準備したいと考えています。